

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 生涯学習課

| | | | |
|-----------|--|-------|-----|
| 会 議 の 名 称 | 令和5年度 第3回茅野市社会教育委員の会議 | | |
| 開 催 日 時 | 令和6年3月8日（木）午前10時00分～午前11時50分 | | |
| 開 催 場 所 | 茅野市役所 8階 大ホール | | |
| 出 席 者 | <p>矢崎美知子委員（委員長）、大作公明委員（副委員長）、市川純章委員、北澤孝郎委員、竹内郁子委員、中村正幸委員、宮坂章委員、矢崎智義委員</p> <p>山田利幸教育長、上田佳秋生涯学習部長、五味正こども部長、竹内こずえ生涯学習課長、武居直樹生涯学習係長、小坂秀輔生涯学習係主査、伊藤利恵文化芸術担当、両角勝元中央公民館長、両角香代教育係長、今井祐子家庭教育センター館長、五味一男図書館長、小池岳史文化財課長、柳川英司文化財係長、山科哲尖石縄文考古館係長、両角徹生八ヶ岳総合博物館長、正木美香博物館係長、鶴飼幸雄神長官守矢史料館長、河西茂廣スポーツ健康課長、松田剛史スポーツ健康係長、阿部香織こども課長、小平剛史こども係長</p> | | |
| 欠 席 者 | <p>小倉誠司委員</p> <p>北澤ゆき子図書館係長、畑中紀之教育指導主事</p> | | |
| 公開・非公開の別 | 公開・非公開 | 傍聴者の数 | 0 人 |
| 議題及び会議結果 | | | |
| 発言者 | 協議内容・発言内容（概要） | | |
| 教育長 | <p>1 開会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>5月にコロナが5類に移行しましたが、今年1年間、コロナ前の状態に戻りつつある活動、同時にコロナを乗り越えて新たな活動を作っていた活動があります。詳しくは後程の事業報告のところで報告させていただきたいと思います。</p> <p>それから一つだけ紹介したいと思いますが、こども読書活動応援センターの調べ学習コンクールの関係で、総務大臣賞を全国で唯一、受賞することができました。大変名誉ある賞だと聞いております。先日授賞式に行き参りました。調べ学習のコンクールですが、茅野市の小中学生4,200人弱おりますが、そのうち3分の1の子どもたちが、夏休みを挟んで、決して強制ではなく、自主的に作品を出しております。かなり全国的にも進んでいると評価されています。今年度、入選した、どうしてにおうの？ぼくの足という作品が1つありますが、家で夕飯を食べていたら、お母さん、お父さん、お姉ちゃんにお前の足は臭いと言われてずっと気にして、いろいろ調べて、お医者さんにまで行って、においを消す方法を考えた内容で賞をもらいました。また機会があったらご覧ください。</p> | | |

| | |
|-----|---|
| | <p>それから、公民館関係になりますが、公民館活動のあり方という点で、コロナの間私たちも先進地と言われた飯田に視察に行ったり、公民館で長野市長沼の元公民館長さんをお呼びして研修を受けたりしました。</p> <p>全国的に公民館活動がかなり、低迷していくというか、今の時代に合わなくなっている面もあるかなと思うわけですが、来年度、公民館の活動の新たなあり方も考えて参りたいと思います。</p> <p>それから三つ目になりますが、今日は事業報告をしますが、行政評価という手法でいくと、何%だとか、何ができたとなりますが、今日発表される方々、どんな市民の姿を願って、そして市民の皆さんがどんな活動をされて充実されたか。そんな点を口頭で入れていただけたらと思います。</p> <p>以上になりますが、今年、明るく締めくくって来年度大きなスタートを切って参りたい、そんな会議にしたいと思います。よろしくお願いします。</p> |
| 委員長 | <p>3 委員長あいさつ</p> <p>卒業式シーズンになりまして、春の訪れが待ち遠しいこの頃ですが、なかなか春は来なくて、まだまだ寒い日が続いております。そんななかご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>昨年5月に新型コロナウイルスが5類に移行されて、先ほど教育長さんがおっしゃいましたが、様々な活動がコロナ以前のように活発に行われています。令和5年度の社会教育関係事業も計画どおりに実施され、茅野市にも活気が戻ってきたことを大変うれしく思います。これより、各事業報告をしていただきますが、そのあと委員の皆様には、感想やご意見を伺いたいと思いますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。</p> |
| 事務局 | <p>4 審議会の公開について</p> <p>本日の会議の公開、議事録の公開について事務局から説明を行う。</p> |
| 委員長 | <p>非公開基準に該当する項目はないため、当会議を公開とし、議事録に関しては、委員名を表示せずにホームページで公開することによろしいでしょうか。</p> <p>(承認)</p> |
| 事務局 | <p>5 会議事項</p> <p>(1) 令和5年度社会教育委員事業実施報告について</p> <p>資料に基づき、事務局から説明を行う。</p> <p>(意見なし)</p> <p>(2) 令和5年度茅野市社会教育に関する成果及び課題の状況について</p> <p>資料に基づき、各課・施設から一括説明を行う。</p> |
| 委員長 | <p>丁寧な説明ありがとうございました。ご意見ございますでしょうか。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>いつも毎年ながら、この報告書の厚さがいつもより厚いのではないかなというぐらい充実していたような気がします。</p> <p>各部署、幾つもコメントをしたいことあるのですが、その各部署が目標を決めて、考えて活動して成果を出しているところで、これだけ多くの事業を展開するというのはすばらしいと思いました。</p> <p>その中で、どんぐりプランの推進にも関わっているが、意外と改めて見ると、子どもに関わる事業をしているところがたくさんあるなと思い見ておりました。</p> <p>茅野市はどんぐりプランということで、子育てで、例えば体験の機会の創出だとか、読書活動をするとかいろいろありますが、どんぐりプランを意識されてもいいのかなと思いました。</p> <p>こども部のこども課だけがどんぐりプランの推進をするのではなく、それは市民にいろんなところで、こういうことに重点を置いて茅野市はしているので、自分たちのミッションの中に関連するならばそこを配慮して、積極的にテーマとして入れてくださいというメッセージだと思います。どんぐりプランの策定は、そこを意識してやったよとかになると、どんぐりプランの策定とか推進をするという意味が出てくる。もちろんそのさらに上位のそれぞれの推進計画に基づいていると思いますが、何かの折に触れてもいいのかな、プランの乱立でプランの整合性がよくわからないことが問題になるので、多重にプランが設計されていることもあるのかもしれませんが、それぞれ重点を置いているので、気づく範囲で取りこんでいただきたい。そうでないとどんぐりプランを作ったときに、それはどんぐりプランで、こっちは関係なく子どもをしていますだと、何だったのだろうかと、そういったことがありますので、各部署で子どもに関することがあったならば、その重点が、特に今回の場合、今年の中間見直しの報告がありますように、例えば子どもの貧困であるだとか、体験の不足だとか、あるいは社会性を担うだとか、そういったいろんな茅野市にたくさんプランが掲げられていますので、そこで置かれていることを意識してするというのもいいのかなと思いました。</p> |
| 委員長 | <p>他にございますか。</p> |
| 委員 | <p>1回目のこの会議で、今年はコロナの扱いが変わって、生徒会もいろいろ考えておりますのでぜひ公民館をはじめとする様々な活動と一緒に参加をさせてください。とお話をさせていただきましたところ、本当に地元の地域の皆様をはじめ、たくさんのところからお声掛けいただきまして、なるべくお応えさせていただくという形で生徒会を中心に子どもたちと一緒に参加させていただきました。</p> <p>ついこの間 12 月に生徒総会がありまして、今年度の生徒会が今年度の北部中学校の生徒会はどうだったのかと振り返りをしましたが、生徒会長が真っ先に全校で言ったのは、今までの先輩たちができなかったことを今年はさせてもらった、さらに学校と地域との連携というものが、ここ 3 年ぐらいほとんどなかったことを今年はこういう形で、僕たちは再スタートというかやり直しといいますかそんな形でさしてもらった。いいかどうかはちょっとわからないけどぜひ後輩の皆さん、これをつなげていって欲しいというよう</p> |

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>な、話がありまして、それを聞いていた2年生、来年度の3年生が、3月の最初に、3学期の総会の集会で柱を設けて話し合いがありました。その柱は、今後の学校と地域との連携をどうしていったらいいかという話を大ざっぱで大きいのですが、中学生が中学生なりに考えられる一市民としてのまちづくりへの参加、そんな意識が出て参りまして、私たちもあんまり急かせないように、子どもたちのスピードを上手に刺激するという形で、長く長く続かせていけるといいなと考えております。</p> <p>市内の小中学校どこも少なからず地域の皆さんとの繋がりというのはありますので、お互いに苦しくならないように、どうやったらこう上手にお互いのよさを生かしながら、茅野のまちづくり、地域づくりができるかと考えていきたいと思っております。</p> <p>各事業報告を受けさせていただきました、いろんな部署の中で、親子でいろいろな体験をするとか、例えば図書館だったら、東海大学付属諏訪高等学校のボランティアの方たちがおはなし会とか、親子でスポーツの方も親子で体験とか、これから未来を担う子どもたち、親子でという、とても良いことだと思います。</p> <p>これからもそのような形で、市民の皆さんに本当にたくさんの方たちに、いろんなことを知っていただいて、参加していただけるようになったら、大変いいと思いました。</p> |
| 委員 | <p>それぞれの事業報告を聞かせてもらい、それぞれの分野で事業を活発に行われていて、大変素晴らしいことだと思います。</p> <p>スポーツ関係で、この3年間のコロナ禍を経て、スポーツ人口が大分減りました。特に今、行事として大きい夜間ソフトボールのリーグ戦、ママさんバレーのリーグ戦は、3分の1ぐらいチームが減ってしまいました。今年度はできたのですが、そんな現状でした。コロナ前にいかに戻すかというのが、今後の課題だと思っています。</p> <p>もう一点、競技スポーツは、競技場がないと何もできない。その中でほとんどの施設はスポーツ公園に集約しているのですが、施設が老朽化して、大分メンテナンスにお金がかかるようになりました。</p> <p>ぜひとも市にお願いしたいことは、スポーツそれぞれの競技をする機会を無くさないでいただきたい。競技場を維持することは大変なことだと、お金もかかりますし、競技によって競技場が必要になってくることですが、どうしても競技場がないと競技ができない。競技ができなくなるとそのスポーツ競技が衰退してしまう。やられている方が近くでできなくなると、遠くに行ってしまうかという、遠くまで行ってする機会は取れなく、スポーツから離れてしまう。スポーツのいいことは、健康、維持管理ができることに一番のメリットがあると思っていますので、そんなことを踏まえて、先ほど課長さんも言われました長寿命化、この観点を踏まえて、なるべくお金がかかることですが、維持していただければありがたいと思います。</p> |
| 委員 | <p>大変充実した形で本当に良かったと思います。ご報告の方々のワードチェックをしていました。出てくる言葉の一番多かったのは、高齢化、老朽化、</p> |

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>解散、新人が少ない、行財政改革で何年かご報告を聞いていて、多分こういうワードが一番多かったのではないかな。それだけ大きな問題になっていることだと思います。これからは高齢化、行財政改革は避けられない状態かと思っています。</p> <p>65 歳以上が 3 人に 1 人になってくるという状況になってきますので、そういった状況を踏まえて、社会教育をどうしていくのか、例えばどんどん税収が減っていったら、社会教育をどうしていくのかという話をしていかなければいけないのかなという気がします。各課の予算、各部署の予算ということはあるんですが、例えば高齢化が進んだときに、65 歳以上に対してどんな形でアプローチをするか考えたら、そこにどのくらい予算を使うとか、雇うとか重点施策を考えていかなければいけないかなという気がします。そのお金の配分のやり方がこれから必要になってくるので、何を重点にして、どのくらいの割合のお金をつぎ込んでいくかという考え方をしていかなければいけないのではないかな。</p> <p>それから、いろんな部署の中で、いろんなイベントをして、そこを盛り上げようとするのを考えていることは、とても大事な事だと思いますが、イベントに参加される方々の数は、限られた数になります。例えばスポーツの関係で親子のイベントを設けて盛況だという話。とてもいい話と思うのですが、イベントに行くことによって集まれる人は限られた人になるかと思うのですが、例えば、各運動会にイベントを持ち込むとかをすればもっと多くの人が参加できるのではないかなという気がします。</p> <p>図書館が、図書館の中でのイベントではなく外に出て、何かのイベントのときに一緒にするとかすれば対象人数が増えるのではないかな。どうしても図書館でいろんなイベントをしたり、博物館でもいろんなイベントをしたりしますが、そこにわざわざ行って参加できるのは限りがあるという気がします。ですので、そこから 1 歩出てサービスをする事を考えていただくともっと人が増えていくのかなという気がします。</p> <p>それから行財政改革の関係ですが、ずっとロングモントの交流に携わってきました。今年もロングモントとの交流が子どもたちの費用が出てこないの、向こうの受け入れだけという形になります。何年かやらせていただいて、アメリカに行って体験することは、本当にインパクトが大きいといえますか、その人の子どもの人生に対して人生を変えるぐらいのインパクトがあります。子どもたちの費用を全部出せとは言わないですが、他の市の交流団体の話を聞いてもそこまでしていません。付き添いの人の補助を出している形です。ですから交流事業という形でインパクトといえますか、影響力考えると付き添いの費用を出してあげれば、行けるのであれば、費用対効果からいえば大きいかなという気がしますので、行財政改革の中で誠に申し訳ないですが考えていただければ、影響力から考えたら大きい効果が得られるのかなと思います。</p> <p>行政のそれぞれのセクションの皆さんの活動を思い起こせば、昨年の 5 月にコロナが 5 類に移行したことで、そのあとの活動をできるだけコロナ前に戻していこうという形で活動され、今日お話を伺って、成果が現れているなと感じる一方、コロナの間に起こったことは結構激しい変化だった。いろいろ</p> |
|----|---|

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>ろな活動、社会教育の活動が高齢化という言い方でまとめているのかわからないですが、社会の状況とか高齢化によって衰退していく、または変化していく。コロナがなければ10年かかっていたのが、一気に押し寄せた。変化を感じられたと思います。</p> <p>ですので、先に結論を言うとコロナ前に戻すという努力ではなく、建物、活動をしていくグループ、活動内容、今まで通りしても先細りしていく。そこにお金を使っているいろんなことを考えて維持していく感じはここで捨てなければいけないのではないかなと思います。</p> <p>建物とか目に見えることで言えば、建物の老朽化で特にスポーツ施設のお話もありました。莫大な敷地と本当に古くなった建物を維持していくだけで、そこに労力を使ったり、お金使ったりしていくことだともたないですよ、そうすると違うことを考えなければいけない。やめるというのは1つの手だけれども、そうではなく、生涯学習のあり方、考え方を変えて、施設については、例えば1つのところに行くと複数の社会教育を体験できる場がある。今後は統廃合という言い方をすると単純なのですが、その中には統廃合をしていく思想がなければいけないと思いました。</p> <p>今日お話を聞いた中で、一筋の光を見たのが、北部中学校の生徒さん方の活躍だと思います。去年の公民館の研修会の中で北部中学校の生徒会の皆さんが、僕たちを皆さんの地域に参加させてくださいというアピールをいただいた。そのインパクトは非常に大きく、地域の夏まつり、秋まつりに来ていただいて、本当に盛り上げていただき、先ほど聞いた尖石縄文考古館の説明をしておられた、どういう事情でやられたかわからないのですが、すごいなという感じがしました。</p> <p>もう1つの視点として社会教育のイメージがいわゆる学校教育以外の教育で、学校教育を終えた方々を対象にした教育というイメージを強く持っていたのですが、そうではなく、学校教育をしている最中の小学生、中学生、高校生が社会の中でどういう教育を受けるか、またそこに携わるかということが一筋の光かな。子どもたち小学生、中学生、今回中学生が大活躍しましたが、そういう人たちに教育をするというか、社会の中での体験をさせることが多分、彼らに対する社会教育なのだろうと思います。そういう視点も強く持って今後進めていくべきではないかと感じました。</p> <p>本当に子どもたちが、携わってくれたことでいろいろな事業を活性化したのが目に見えたので、そういった視点も、先ほど子ども家庭応援計画の話もありましたが、その中で子どもたちにどう社会に関わらせていくかということが重要、子どもたちの意見をもっと聞く、子どもたちはどう考えているのか、子どもたちと大人と一緒に参加させる。または担い手として参加していただく視点を持って進めていくのが、コロナ過後の見方に必要だろうと感じました。</p> <p>最初の教育委員を受けたときに説明を受けて、なるほどと思ったのは社会教育とは学校教育以外の教育の全てということ。学校教育がここへ来て少しずつ変わったのは、コミュニティスクールといって、学校の建物の中だけで行われる教育だけでなく、地域も交えて学校を作っていく、その境界線がにじんでいくような学校という壁が無くなるようなことを聞いて、そのように</p> |
|----|--|

見ると社会教育も学校の中で行っているプログラムだから、対象者は小学生子どもも入るという意味で、それを学校の教育プログラム以外とする教育も社会教育なのだろうなとそんな印象を受けています。

いろんな事業で、作品展をすることも目標だと思います。何かいろんな活動って、目標がないとできないから、目標設定だとか出口設定という意味で授業をしているというのが多いのかな、それを自ら職員が講座を開くことではなく、目標設定をしてそこに何か価値をつけてあげることだけでもいいのではないかな。それに対して、財政のこともありました、博物館で特にすごくよく進んでいるなと思ったのはボランティアスタッフです。言葉の意味を正しく広く捉えると、自治だと思います。自治は、自分たちのことを自分たちでするじゃないですか。だから、自治の最低の対応は市だと思います。

行政区まで行くと、水道も上水道もいろんなことができるわけなし、行政区が自治の最小単位よりも、市が1つの単位で役割分担のサブクールセットとして、行政区があるのかなと思います。そういったところの自治ですから、お金で誰かを雇える時代でなくなってくるならば、自分たちでやりましょうということだろうな、この春先にも申し上げた疑問点で、今ここで取り上げている社会教育が、何か個人の文化的教養の豊かさの学習というテーマのコンテンツだけが入っていて、最終的に人々が、自分たちが豊かになるためには、茅野市が豊かでないといけないわけで、そこをどうするかという、マインドの教育も社会教育の中に入っていなければいけない、その教育は誰がするのだろう。実際になり手がないうとか、いろんなところのなり手がないう。なり手がないうというけど、自分たちの世界を豊かにしていくパートナーのはずだけど、なり手がないう、でもかたや文化的に自分たちの教養を楽しむというのは充実してきて、公民館の利用も増えている、施設の利用も増えているけど、かたや茅野市の方で開いてもらう。ここは僕たちが集まって社会教育にお金かけて、何かあったらお互い様で社会を豊かにしていくための教育をしてもいいのではないかな。そう考えたときにパートナーシップ、例えば茅野市ならパートナーシップのまちづくりの推進があるが、社会教育を担っているとするのかどうか、中身的には自治のことを市民の皆さんやりましょうということを推進しているのかなと思いますが、だったら社会教育の中でも一緒に取り扱って関連できる部署があればいいのではないかな。博物館で自治しようというときに、市民でボランティアスタッフがしたり、草がぼうぼうになっているところは自分たちで刈ってみようだとか、そういったことも含まれるのかなと思って、あらゆるところがそれだと社会教育できりがなくなるかもしれないのですが、少なくとも自分たちの自治を考えるというテーマを社会教育として取り上げていいのではないかなと思いました。

パートナーシップのまちづくり推進課が市民に訴えかけるところも社会教育として捉えるか、市長が最近言うようになった公民館活動の活性化というところの解釈はとても難しくて、市長の話を聞いているとパートナーシップ推進とかそういった自治のことを言っていますよね。公民館で、僕が茅野市に来たのは20年前ぐらいで、昔の公民館活動は、自治としての公民館活動の側面があると聞いています。もしかしたら茅野市の場合はそれをパートナーシップという形で切り出して残ったのがレクだけになったのかな。そうすると自治会はあるし、私も公民館、分館の主事をやりましたが、何か自分

| | |
|----|--|
| | <p>たちの存在が中途半端に空白化しているなという意識がありました。そう思ってみたら、公民館の問題意識にいろんな組織が多重化しているところをどうするか、そういった自治のところの社会教育のテーマが公民館として積極的に扱っていないのをどうするかで、パートナーシップのまちづくり推進に分けたのだったらそれも社会教育としてこっちに入れるか。公民館の活動の中にもパートナーシップ推進というか、自治のテーマを入れていくか、どちらかをしていくと良いのかなと思いました。</p> <p>それで要するにこの1つの追加テーマは、社会教育というのは個人の豊かさだけでなく、その豊かさは社会を豊かにするためだから、そのテーマを入れてもいいということを改めて、ご意見したいと思います。</p> <p>行財政改革の中で、テーマがよくわからないというか整理されてもいいのかなと思ったのは、茅野市の財政が危機的であると言っているストーリーのメインは、建物に投資し過ぎたとなっています。</p> <p>投資し過ぎたという大変ですね、建物をたくさん作ってきて維持費が大変になりました。そうすると行財政改革の1つは、建物の問題と捉えられます。ここで言う改革というのが、建物のことを言っているのか、建物は無くなっても、組織や課題は残って、テーマも残って機能も残る話になるが、建物を無くすイコール機能を無くすのか、テーマも無くすなのかが曖昧になっている気がして、いろんなセンターで建物を持っていないセンターもあります。人的リソースの専任を当てている人の確保ができなくなったことを言っているのか。一緒に議論されているような気がして、家庭教育センターは廃止するが、仕事は各部署に統合したということは、建物ではなく組織のスリム化だけど仕事は減っていない。その辺が行政の都合を言っているのかもしれませんが、市民からすると何がメインテーマだったのかがわからなくなっている感じがしました。</p> <p>やらなければいけないことをやらないというのを言わないと、建物を無くすと同時に仕事をしなくなるのか、その線引きが見えない感じの話に聞こえたので整理していただきたいと思いました。実際には人が足りないからという話もあったりする。</p> <p>最後ですが、公民館の重点課題で、今後、コミュニティ推進部署を中心に関係部署と検討協議を進めていきますとありましたが、これは市民が関わる大きな組織替えの話になるので、担当部局で検討はベースの案は考えるでしょうが市民を巻き込んでやらないといけない、大きな仕事ではないかなと感じました。部局の担当の整備のような形でいくのかなと読めるので、原案がゼロから市民と一緒にやってもこれはきついで、問題整理は関係部局であるでしょうがそのときにどうやって、市民と一緒に入れていくのが、本当の協働のまちづくりなのではないかな、そんな感じがしました。なのでそれも社会教育の一つの大きな関係だと思うので、茅野市の場合にはパートナーシップの推進ということで、地区コミュニティとか、いろんな部会とかを整理してきたので、一緒に整理していくのが大切なのかなと感じました。それも社会教育の一環なのかなと思っております。</p> |
| 委員 | <p>各部署丁寧に報告をしていただきありがとうございました。昨年度は成果の欄に何ができなかったという報告が多かったのですが、今年度は各部署成</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>果が見られたという報告が多くあり嬉しく思いました。本当に皆さんお疲れさまでした。ありがとうございました。</p> <p>コミュニティスクールについて、地域住民と学校が連携協働して、子どもたちとともに地域とともにある学校づくりということで、地域学校協働活動というのが進められています。私も学校から授業のお手伝いの依頼を受けて、何度か学校へ伺う機会があります。また自分以外にも大勢の人にお声掛けして、事業の協力をしていただいています。皆さん子どもたちのためならと快く協力してくださり本当に楽しく、やっています。子どもたちとの時間は、すごく私たちの学びにも繋がり、大変重要なとても貴重な時間になっていますので、本当にそれはいいなと自分も協力して楽しいなと思っています。</p> <p>ただこのコミュニティスクールをこれからずっと継続、持続可能にしていくには、たくさんの方の協力が必要です。地域との連携がすごく大切になっていくのかなと思います。例えば、地区の関係団体の方たち、あるいは地区公民館の建物を使って活動している方たちなど、公民館活動から人材を見つけ出して、子どもたちや学校に協力してくださる方たちを探していくことが大切ではないかと思っています。</p> <p>また社会教育関係団体があります。中央公民館に登録されている方たちですが、そういう方たちは自分たちでやりたいことを見つけて一生懸命活動している方たちです。そういう方たちにもお声掛けをして、学校に協力してくださる方はいらっしゃいませんかというような促しができる仕組みを作り、地域の子どもは地域で育てるという考えを持って、学校の子どもたちの活動に関わっていただけたらと思っています。</p> |
| 教育長 | <p>今までは学校応援団としてのコミュニティスクールとして、平成 29 年から始めてようやく今年軌道に乗り、ほぼでこぼこがない状態になってきて、学校によっては地域と連携が進んでいるところもあるし、学校から地域に出ています。ある程度の段階に入ったことで枠組みをもう一度大きく考えていこうと思います。</p> <p>今言われたことをすでに始めている地域もある中で、さらに進めてもらいたいと思います。</p> |
| 委員 | <p>毎回この会議で各部局のご報告をお聞きしますが、むしろ大事なのは、全体の社会教育をどうするのか、今問題になっている高齢化、財政難にどう対処するかが大事なという気がしますので、ぜひそういった内容を話したり、提案をしたり、考えたりする機会を作っていただければと思います。</p> |
| 委員長 | <p>他にご意見ありますでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>人口動態で考えると、子どもの関係だと子どもが少なくなっているから、子どもの授業、イベントは、子どもの奪い合いみたいな、そういうすごい時代が来ちゃう。子どものもてはやし状態というか、逆に一方、この人口動態的にシニア世代が増えていく 20 年と思います。働き方改革で、労働に携わる時間が増えるかもしれませんが、基本的に働き方が変わって時間の使い方</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>が変わる人たちが増えていく 20 年間があるので、これが社会活動というのですか、そういった時間的にゆとりが出てくるはずです。だからそういうことを考えると、これまでタイプが違ってても社会教育というのは場づくりでもあったし、そういったマインド養成も入ると思います。そういうことで、作戦を変更してもっと動ける人が増えてくると思います。</p> <p>なので、ぜひ人口全体的には子どもが少なくなっていて、子どもの奪い合いで、お手伝いしたい人たちがどんどん増えてくる。そこにあったようなことをして自治力というのですか。自分たちでお金ではないやり方というのですか、ありがとう通貨でも用意して、この労働を評価するという手はあると思います。それが市民通貨、地域通貨、ボランティアポイントみたいな見えるほうが目標になるのかなと思いました。</p> |
| 教育長 | <p>図書館協議会でも、子どもには読み聞かせると言っているが、一番人口が増える高齢世代をどう大切にして、地域文化、地域全体を活性化していくか考えだしました。幅広く、特に高齢者のことも大切に考えてもらいたいと思います。</p> |
| 事務局 | <p>6 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茅野市総合計画審議会の委員について（第 1 回を 3 月 21 日に開催予定）事務局より委員の選出について説明 <p>（市川委員に決定しました）</p> |
| 副委員長 | <p>長時間にわたりまして、慎重審議いただきましてありがとうございます。以上をもちまして、令和 5 年度第 3 回茅野市社会教育委員の会議を閉会いたします。お疲れさまでした。</p> <p style="text-align: right;">～午前 11 時 50 分 会議終了～</p> |